

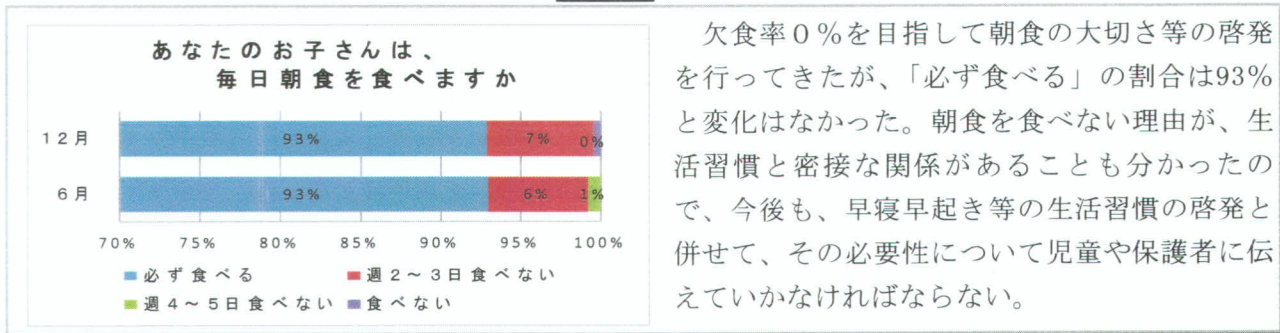
Ⅲ 成果の検証

次のような4段階で評価しながら成果や課題を考察してみる。

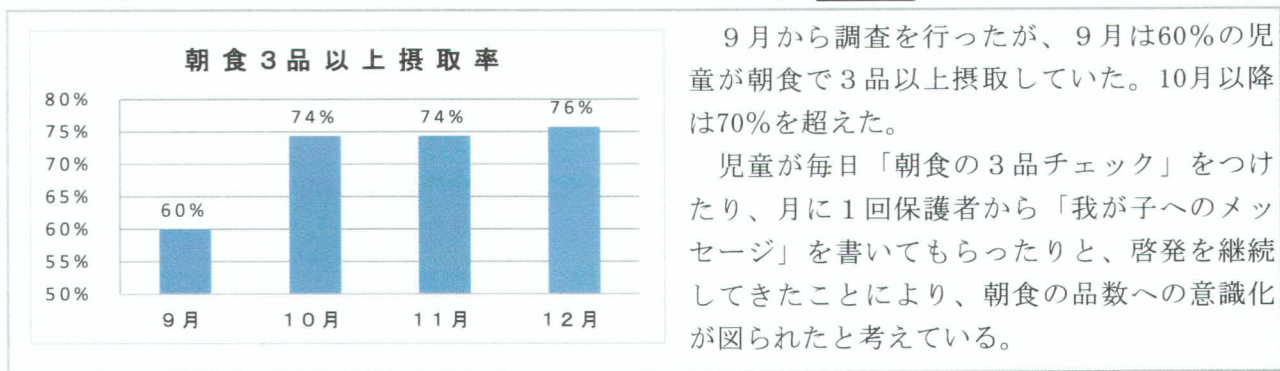
◎…十分達成できた、○…概ね達成できた、△…あまり達成できなかった、×…達成できなかった

1 評価指標についての考察

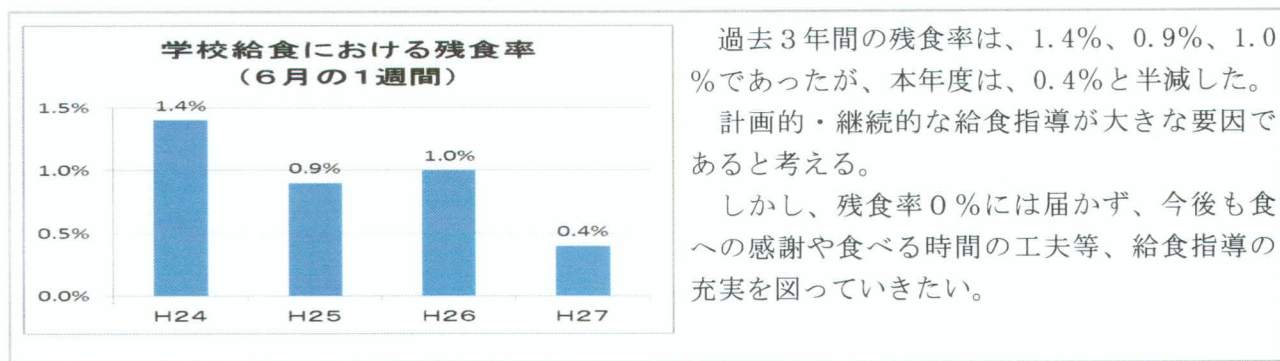
(1) 目標「朝食の欠食率0%」…達成△



目標「朝食品目数3品以上摂取率10%増加」…達成◎



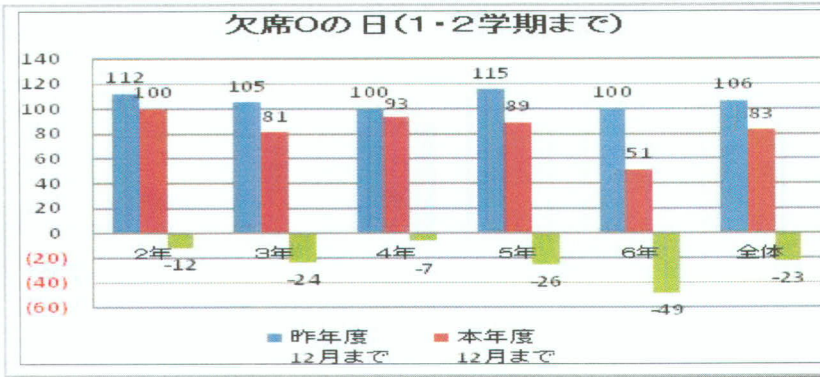
(2) 目標「学校給食における残食率0%」…達成○



(3) 目標「不登校児童率0%」…達成×

昨年度の不登校は0人であった。本年度は、不登校1人となり、達成はできなかった。今後も不登校の解消を目指して学校総体で取り組んでいく。なお、食育と不登校の関係性は明らかになっていない。

(4) 目標「欠席0の日を各学年前年比10日以上増」…**達成×**



昨年度の12月までの欠席0の日は、各学年平均で106日であった。本年度は83日と23日減るという結果になった。また、すべての学年で欠席0の日がマイナスの結果となった。食育と欠席の関係性は明らかになっていない。

(5) 目標「活動量計の1日1人当たりの歩数合計を平均1,000歩以上増加」**達成○**

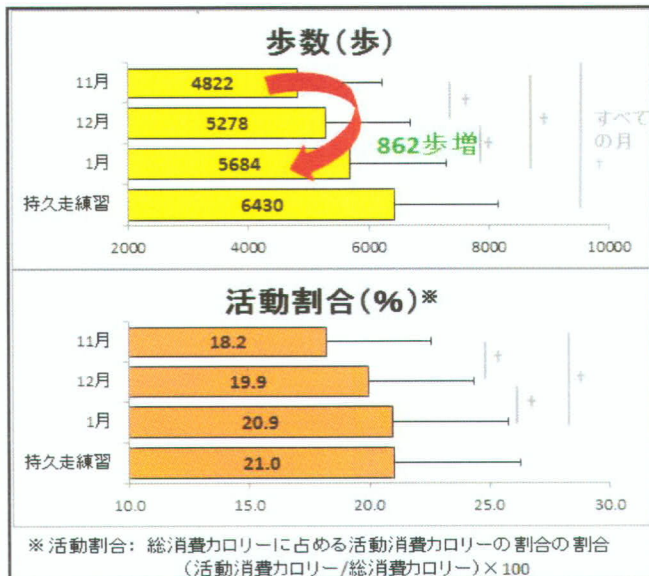
【活動量分析対象者及び比較方法】

項目	男子	女子	合計
	1年	37	
2年	36	27	
3年	31	32	
4年	36	24	
5年	22	38	
6年	26	35	
合計	188	183	371

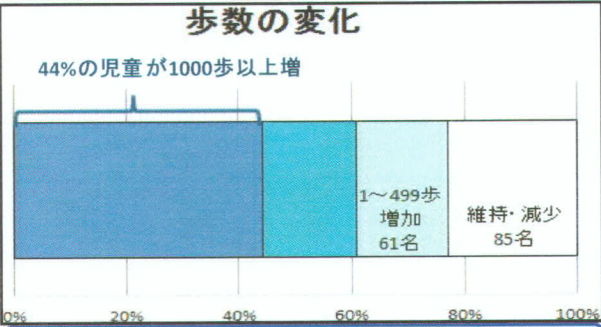
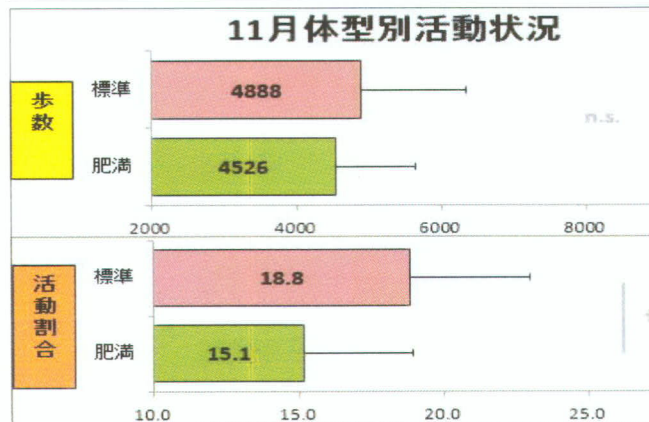
●活動量分析対象者
 ・11/11～1/28までの学校生活時間のみ(学校が休みの日は対象外)
 ・1日1000歩以上を学校生活にて終日装着しているとみなし、解析は1000歩以上を対象とした
 ・各月2日以上装着し、11月、12月、1月すべてある児童
 ※以下は分析対象外とした
 ・1/19,20(5,6年生のみ学校生活以外で装着したため、学校+片道の通学)
 ・12/24,1/8(短時間の学校時間のため)
 ・1/25(臨時休校のため対象外)

比較方法
 ・11/11～11/18は持久走練習期間であり、通常とは異なる学校生活であったため、11月の代表値は11/19～30とした
 ・持久走練習、終日装着、各月(11月、12月、1月)と算出した。
 各月の比較検定は4群間Friedman検定、体型別の比較はMann-Whitney検定(ノンパラメトリック法)を使用

①学校生活における活動状況の変化 (371人)



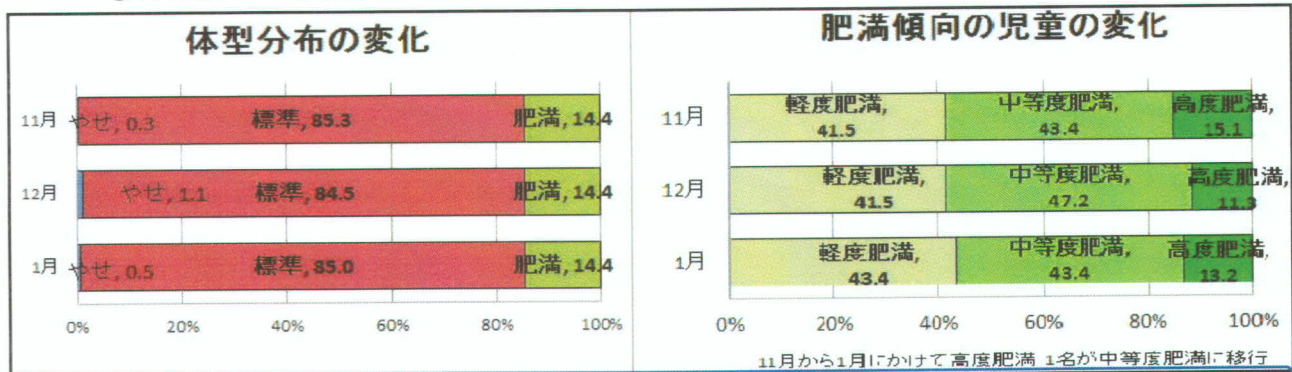
← 「歩数」、活動の強度を示す「活動割合」とも11月、12月、1月と増え、11月に比べ1月は平均歩数が862歩増加し、活動強度も高まった。862歩の増加で目標値である平均歩数1000歩増にわずかに達しなかった。ただ半分弱の児童は1000歩増となった。寒い時期にも関わらず活動量が増加したのは子供達の意識が変わった結果であり、素晴らしいことである。通学では平均で2000歩、往復で4000歩となり、1日の歩数は学校生活(5700歩)を加算し、平均で約1万歩と想定する。



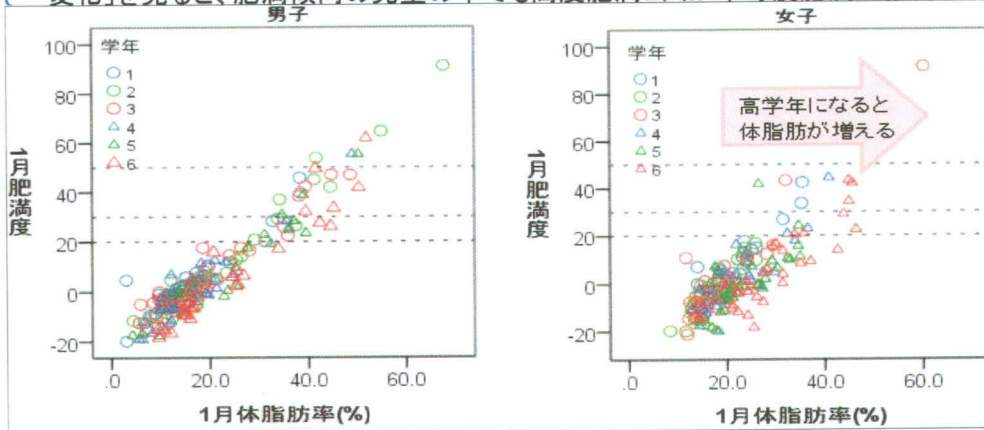
↑ 1000歩以上増加した児童は半分弱、500歩以上は約6割であった。

← 肥満度からの体型判定でみた「標準」と「肥満」では、歩数の差は見られないが、活動割合は「肥満」で有意に低値となった。以上より肥満体型の児童はゆっくりとした歩行であることが推測された。活動量を増やすには、歩くだけでなく、速く歩く、走る、飛ぶなど強度の高い活動も必要である。

②体型分布の変化



↑ 「体型分布の変化」を見ると、肥満傾向の児童の出現率の高さが変わらなかった。「肥満傾向の児童の変化」を見ると、肥満傾向の児童の中でも高度肥満2人が中等度肥満に移行した。



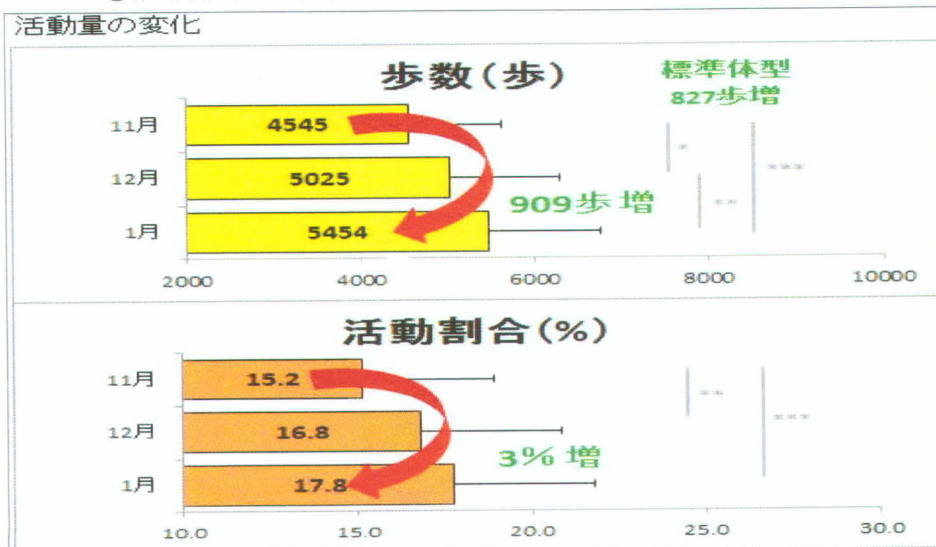
肥満傾向児の出現率は14%と変化がないが、高度肥満1人が中等度肥満に移行した。さらに、約3割の児童(15人)が体脂肪率が減り、筋肉量が増えた。高学年女子は、肥満度は同じでも体脂肪が増える時期であり体脂肪と体重の両面からの指導を行った。

③筋肉量と脂肪量の変化

		11月		12月		1月		
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
男子 (n=189)	身長	132.4	11.5	132.7	11.5	133.1	11.6	***
	体重	32.0	10.8	32.3	10.8	32.6	11.0	***
	筋肉量	23.8	5.2	23.8	5.2	23.9	5.2	**
	脂肪量	7.1	6.9	7.3	6.9	7.6	7.3	***
女子 (n=178)	身長	134.9	13.0	135.1	13.0	135.7	13.0	***
	体重	32.1	10.5	32.5	10.5	32.9	10.7	***
	筋肉量	23.5	5.5	23.6	5.5	23.5	5.2	n.s.
	脂肪量	7.3	5.3	7.6	5.3	8.1	5.9	***

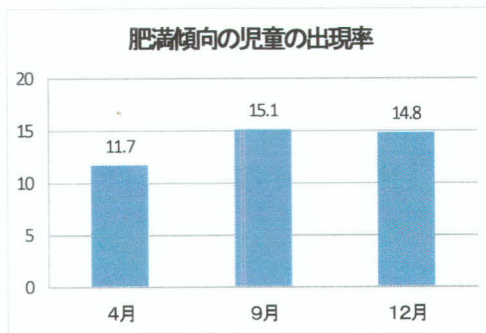
2ヶ月間で男女とも体重が約0.7kg増加した。その多くは脂肪量で増加した。
男子は、筋肉量、脂肪量ともに増加したが、女子は脂肪量のみ増加した。わずかだが、成長にともなう男女の差が明らかとなった。
4年1組では、2ヶ月間で31人中28人の筋肉量が増加した。筋肉が増える生活に変容できたことはよかった。

④肥満傾向抽出児童の変容について (4月調査で肥満度20以上であった41人の変化)



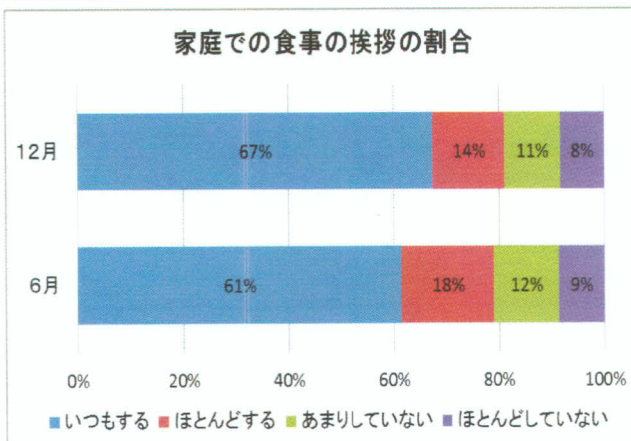
「歩数」、「活動割合」とともに増え、標準体型の児童よりも多い増加であった。
体組成への変化には表れていないが、増やした活動量を引き続き維持していくことで、肥満が改善してくると思われる。
4年1組の高度肥満傾向にあった児童は、体重の変化は見られなかったものの、筋肉量は3kg増えた。冬休み中も自らの計画で運動を続けた結果である。

(6) 目標「肥満傾向（肥満度20%以上）の児童の出現率を10%以下」**達成×**



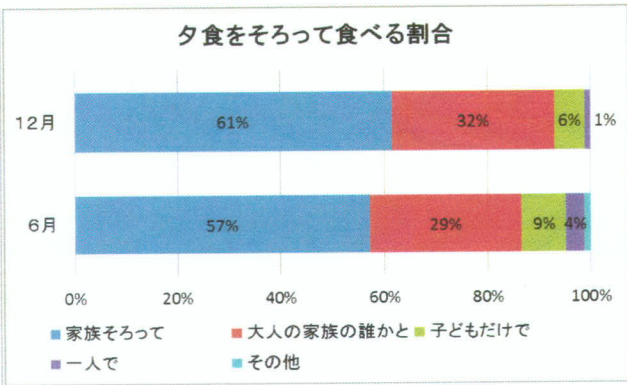
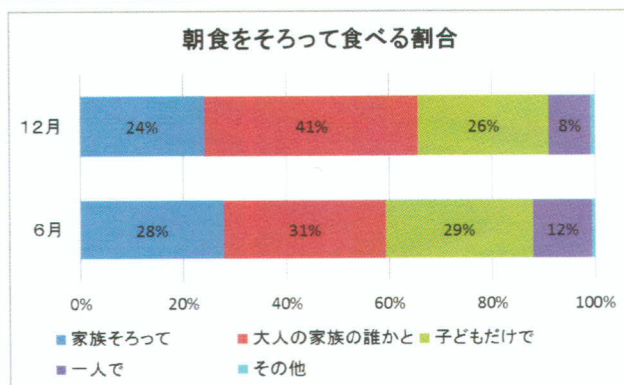
4月は肥満傾向の児童の出現率が11.7%であった。9月は夏季休業中後の調査ということもあるが、大きく増えてしまった。2学期から朝のパワーアップタイムと昼の外遊びタイムを新設した。また、11月中旬から活動量計での取組を開始したが、成果は表れなかった。食育だけでなく体力向上との関連を図りながら、1年間継続した取組をしていく必要があると感じた。

(7) 目標「食事の挨拶の意味が分かり、感謝して食べることができる児童の割合100%」**達成○**



家庭で「いただきます」「ごちそうさま」の食事の挨拶を「いつもする」割合が、6月が61%で、12月が67%と増加した。また、給食では食事の挨拶の意味や食への感謝等を指導したり、食事の前と後に必ず挨拶をし習慣化を図ったりしている。しかし、家庭で食事の挨拶を「あまりしていない」「ほとんどしていない」と答えた児童が19%もいるという課題もある。今後もアンケート結果の紹介等、啓発を図っていきたい。

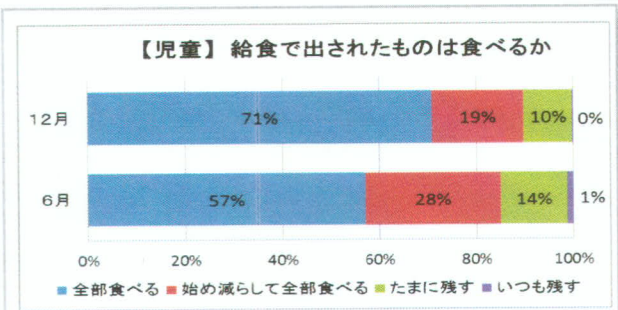
(8) 目標「朝食、夕食を揃って食べる家庭の増加」…**達成○**



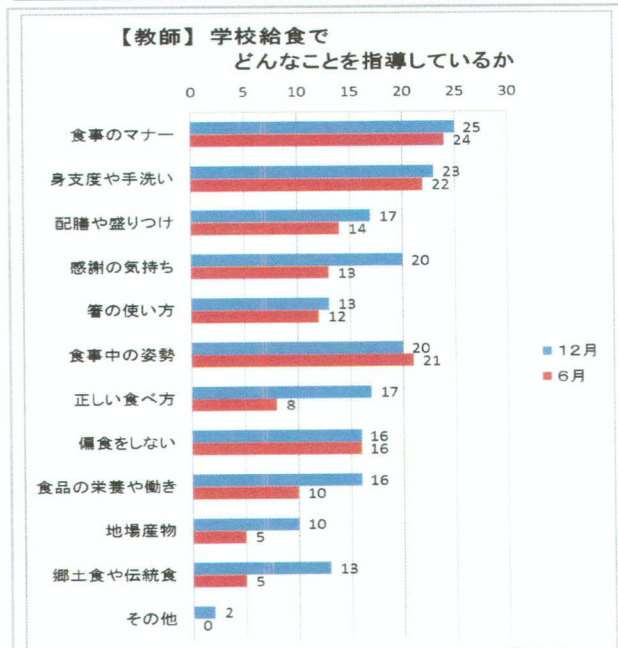
「家族そろって」と「大人の家族の誰かと」を共食ととらえている。朝食では、6月が59%で、12月が65%と共食の割合が増えた。夕食でも、6月が86%で、12月が93%と増えた。また、「1人で食べることを孤食というが、朝食が12%から8%、夕食が4%から1%と孤食の割合が減った。児童が「朝食の共食チェック」を毎日行ったり、保護者に「我が子へメッセージ」を月1回書いてもらったりしたことが、共食の増加につながったと考えている。仕事の都合等で仕方がない部分があると思うが、少しでも孤食が減り、共食が増えるように、今後も共食の大切さを伝えていかなければならない。

2 本校の研究全体についての考察

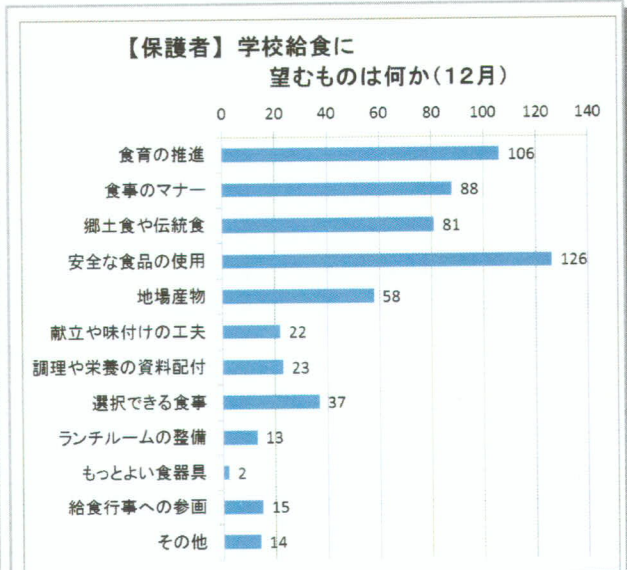
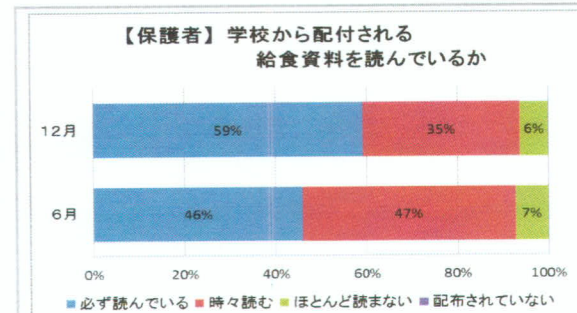
(1) 学校給食について…達成◎



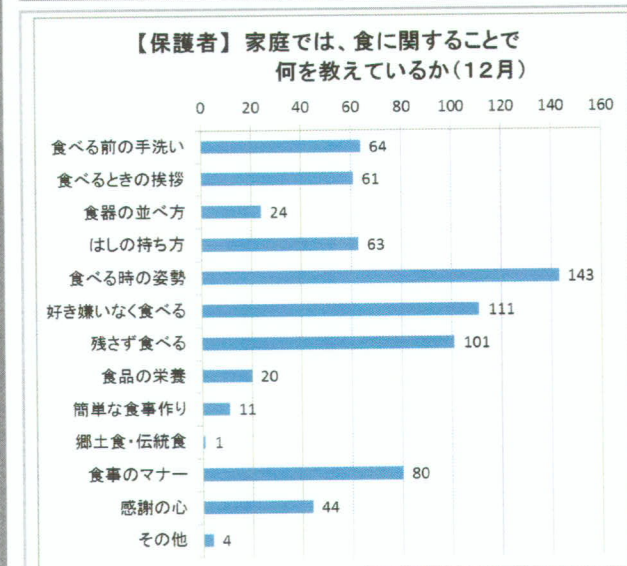
給食を食べる時間は20分である。全員が完食とまではいかないが、6月と比べて12月は、明らかに完食する児童の割合が多くなった。1人あたりの残食量が、昨年度の15.8gから4gと大きく減ったことから明らかである。5分間の「食育タイム」で食への知識と意識の深化を図ったり、「もぐもぐタイム」で食べることに集中する時間を設けたりと、毎日の給食指導により、完食率が増えたと考える。



6月と比べて大きく伸びたのが、「感謝の気持ち」「正しい食べ方」「食品の栄養や働き」「郷土食や伝統食」であった。毎日5分間の「食育タイム」の中で、担任が食に関する様々な話をしてきた。栄養教諭や担当から食の情報や話題を提供されたことも大きな要因であった。



「安全性」が一番の要望であった。給食センターを中心に今後も安心安全な給食を目指していかなければならない。また、「食育の推進」は、保護者からも大きな要望であるので、学校と家庭との連携を更に深めて食育の推進を図りたい。

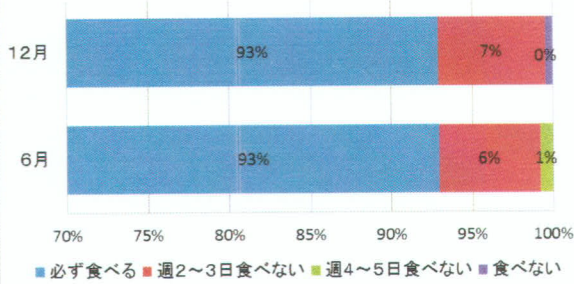


平日は朝食と夕食を家庭で食べる。毎日のことなので、家庭教育の場として大切な時間の1つである。家庭により教えることは違うのだが、傾向として「姿勢などのマナー」と「偏食や完食」についてが多かった。給食指導との関連も図りながら、連携して食育を進めていきたい。

「必ず読んでいる」が13パーセント増と大きく増えた。学校と家庭が連携して食育を推進するためには、学校から配付される食に関する資料を読んでもらうことが大切である。「献立表」「球磨さんだより」「食育レポート」では、食への関心を高める内容のせたり、給食の様子を紹介したりと工夫してきた。そのことが、成果につながってきていると考えている。

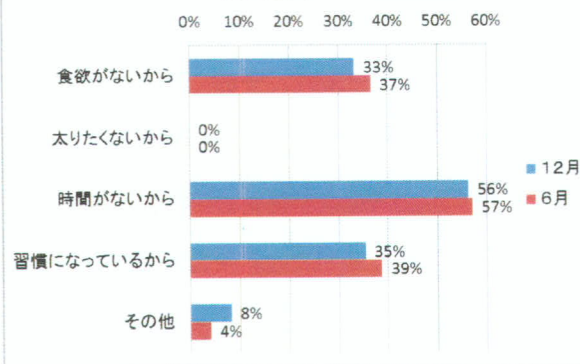
(2) 家庭での食事について…達成〇

【保護者】あなたの子どもは、毎日朝食を食べるか



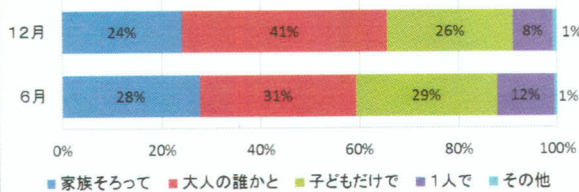
欠食率0%を目指して朝食の大切さ等の啓発を行ってきたが、「必ず食べる」の割合は93%と変化がなかった。

【保護者】あなたの子どもが朝食を食べない理由は何か



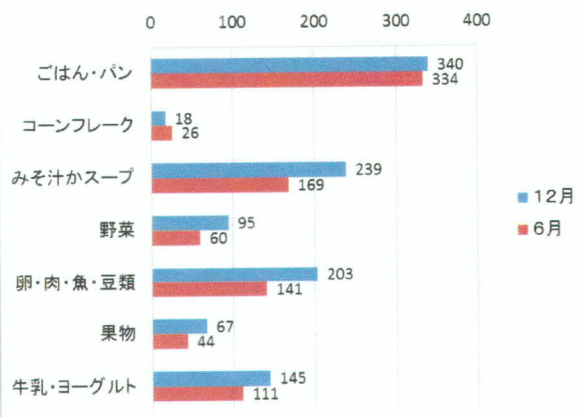
朝食を食べない理由は、「時間がないから」「習慣になっているから」「食欲がないから」の3つであった。どの理由も生活習慣と密接な関係がある。今後も、早寝や早起き等の生活習慣の啓発を推進しながら、朝食の大切さを児童や保護者に伝えていかなければならない。

【児童】朝ご飯は誰と食べているか



「家族そろって」と「大人の誰かと」を共食と捉えている。6月の共食は59%であったが、12月は65%と若干増えた。また、「1人で食べることを孤食というが、孤食は12%から8%と減っている。仕事の都合等で仕方がない部分があると思うが、少しでも孤食が減り、共食が増えるように、今後も共食の大切さを伝えていかなければならない。

【児童】朝ご飯として大体毎日食べているもの



コーンフレーク以外の食品は、6月よりも多くなった。つまり、朝食として食べる品数が増えた家庭が多かったことが分かる。児童は毎日、「朝食の3品チェック」を行っているし、月に1回保護者からのメッセージを書いてもらっている。このように、「朝食の3品以上の摂取」の啓発を継続してきたことにより、朝食の品数への意識化が図られたと考えている。



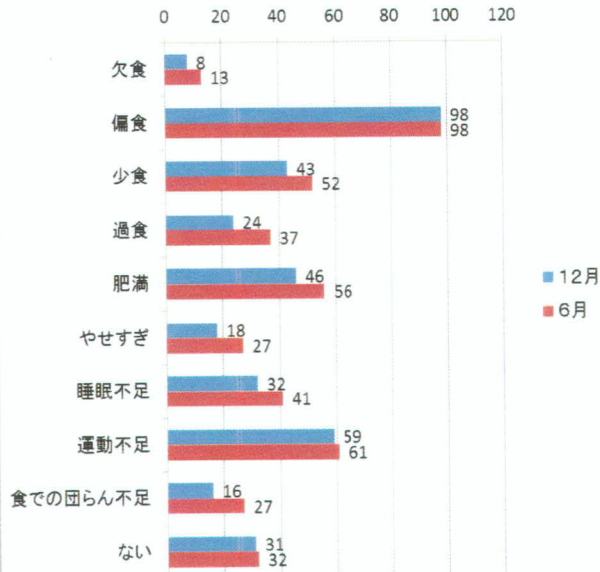
【保護者】家庭では、食に関することで何を教えているか(12月)



平日は朝食と夕食を家庭で食べる。毎日のことなので、家庭教育の場として大切な時間の1つである。家庭により教えることは違うのだが、傾向として「姿勢などのマナー」と「偏食や完食」についてが多かった。給食指導との関連も図りながら、連携して食育を進めていきたい。

(3) 食べ物の働きの理解、生活や身体について…**達成◎**

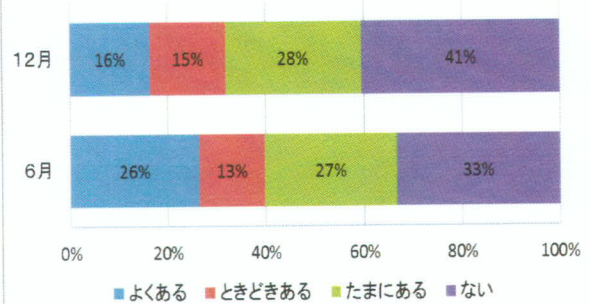
【保護者】 児童の生活や身体で心配していることは何か



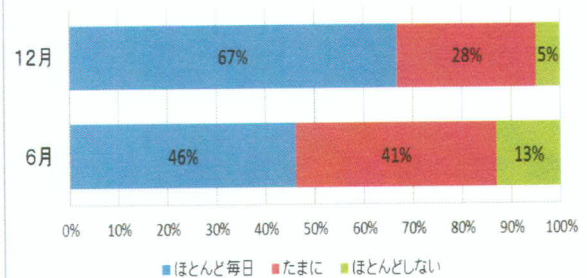
児童の生活や身体で心配していることの中で、圧倒的に多かったのが「偏食」であり、6月と12月に変化はなかった。学校の給食では完食率が増え、残す児童が減ってきた。つまり、学校では嫌いな食材も食べているが、家庭では嫌いな食材を残していることが予想できる。

また、次に多い心配事は「運動不足」と「肥満」であった。家庭生活の中で、運動する機会がほとんどない児童もいる。家庭での啓発を図るとともに、学校生活の中で、もっと体を動かす機会を設けていきたい。

【児童】 あなたは、イライラすることがあるか



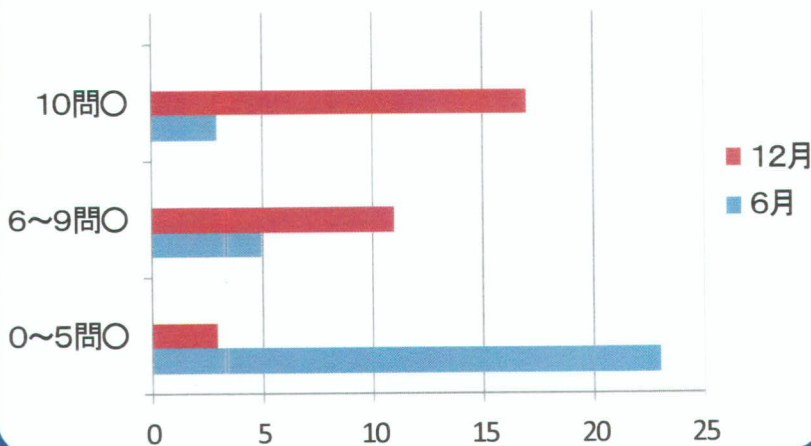
【児童】 学校がある日、体育の他に運動(外遊び)をしているか



6月の調査で「イライラすることがよくある」と答えた児童が26%もいた。12月は16%と減っていた。

その大きな要因として外遊び等での運動の増加が考えられる。外遊びタイムの設定や活動量計での運動の啓発により、体を動かす機会が増え、イライラの減少につながったと考えている。

食べ物の仲間分け正答率



食べ物の仲間分けについての理解は、6月の食生活調査で、大きな課題が見られた。

しかし、12月の食生活調査では、食べ物をその働きごとに赤・黄・緑の仲間分けをする項目において、10問中の正答率が大きく向上した。

毎日の給食時間における食育タイムで、子どもたち全員が交替で取り組んできた成果であると考えている。

(4) その他について

① 「免田小学校版食育ステップ表」の実績検証…達成◎

8 免田小学校版食育ステップ表

	授業実践	食育・給食指導	調査・分析・実態把握	家庭・地域との連携
ステップ1 実態把握 計画立案	<ul style="list-style-type: none"> 視点を1食への興味・関心を高め、正しい知識と望ましい食習慣を定着させる学習指導の工夫 実態把握 全体計画の作成 研究の構想図の作成 給食指導の共通理解(学年、学級)の設定 校内担当者の決定 推進委員会等の設置(食育推進、健康、学校保健委員会等) 役割の明確化(給食指導、食に関する指導、個別指導、啓蒙等) 教職員の意識改革(方針、取組の共通理解、校内研修の実施等) 情報提供資料の考案(給食献立) 	<ul style="list-style-type: none"> 視点を2健やかな心と体づくりにつながる自己管理能力を高める日常指導(給食指導も含む)の工夫 年間指導計画の作成 自己管理能力についての共通理解 月ごとの食育目標と給食目標の設定とすりあわせ 食育タイムの計画 提供資料の準備(一ロメモ、旬の野菜・マナー、献立) 提供資料のICT化 食育月間の設定 各教室の食育コーナーの設置 	<ul style="list-style-type: none"> 視点を3食や運動の課題を見つめ、要容を実感する調査・分析・啓蒙の工夫 学校の課題認識 数値目標の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 視点を4学校・家庭・地域が連携し、望ましい食習慣と体づくりへの関心を高める食育活動の推進 栄養職員の参画
ステップ2 各の計画立案	<ul style="list-style-type: none"> 教科等のねらいと食育のねらいを踏まえた授業の洗い出し(食育関連教科等) 「行動化」を支える自己管理能力の共通理解 学習過程の工夫「食育授業をさしすせそ」 授業実践のための単元の設定・指導案検討(生活科・総合的な学習の時間) 	<ul style="list-style-type: none"> 自己管理能力についての共通理解 月ごとの食育目標と給食目標の設定とすりあわせ 食育タイムの計画 提供資料の準備(一ロメモ、旬の野菜・マナー、献立) 提供資料のICT化 食育月間の設定 各教室の食育コーナーの設置 	<ul style="list-style-type: none"> 実態把握の方法の計画 アンケートの実施(児童・保護者) 新体力テストの実施 食育支援システム(活動量計・体組成計)の使用と活用検討 食育チェックブック検討 	<ul style="list-style-type: none"> 情報提供(給食献立・ふるさと球磨さん便り・給食便り・食育レポート・学校便り・学年・学級通信) 個別相談指導(アレルギー、偏食、肥満等) 地域人材活用(免小版コミュニケーションスクール)整備 地場産物の活用促進(生産者、あさぎり産農社等)
ステップ3 実践①(食育の基礎作り)	<ul style="list-style-type: none"> 各学年における授業実践の関心を高める体験活動 栄養教諭の効果的な活用 地域人材活用した授業実践 各種団体との共同実践 教科等での指導内容と関連した献立の活用 栄養職員による訪問指導 	<ul style="list-style-type: none"> 食事マナーの徹底(共通理解・共通実践) 楽しい食事準備作り 児童会・生徒会活動の活性化(給食委員会を中心とした児童会活動) 提供資料の活用(一ロメモ、旬の野菜・マナー、献立) 食育・生活改善のための特別授業セミナー 新体力テストからのパワーアップメニューの資料作成 新体力テストを活用したパワーアップメニュー 各教科との関連献立 食育月間の実施 県の朝食キャンペーン参加 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの集計及び分析 新体力テストの結果分析と対策 食育支援システム(活動量計・体組成計)の使用とデータ集計 食育チェックブック実施 肥満(やせ)傾向児童のリストアップ 	<ul style="list-style-type: none"> 学年学級懇談での情報提供 家庭での実践のきっかけ作り(朝食キャンペーン、献立発表、食育レポートなど) 親子料理教室 PTA活動への働きかけ(教育講演会、地区懇談会) 特別授業セミナーの実施 地域人材を活用した体験活動
ステップ4 実践②(食育の発展的な活動)	<ul style="list-style-type: none"> 授業の検証(校内研修) 体育の授業改善(十分な運動量を確保する学習活動の工夫) 	<ul style="list-style-type: none"> 栽培活動での食材を給食へ提供 生産者との交流 交流給食(生産者、異学年・協力団体) 委員会による食育月間の取組(代表委員による自発的な活動) アンケートや教育支援システムを活用した実践 体験活動や委員会活動の実践報告 昼休みの時間の外遊タイム及びランランタイムの実施 冬休みの健康チェックカードの作成と実施 食育ロードの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 地場産物の発掘・調査・活用 地域の食文化の再考 食育支援システムの情報活用 最終アンケートの実施と分析 肥満(やせ)傾向児童への個別指導 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の伝統食の継承(学習発表会・免田っ子祭り) ホームページ及び町広報紙での啓蒙 母親部による給食献立コンクール 給食試食会(母親委員、あさぎり町総合福祉計画との連携) PTA活動参加 あさぎり町及び他校との連携
ステップ5 反省と次の年度へ引き継ぎ	<ul style="list-style-type: none"> 実践しての年間計画の見直しと修正 授業実践の成果と課題の振り返り 年間計画の見直し 資料等の整理 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の精進と見直し 活用資料の整理 数値目標の検証 取組の成果と課題 	<ul style="list-style-type: none"> 食育支援システムの活用状況と効果の検証 	<ul style="list-style-type: none"> 年間の取組の啓蒙 あさぎり町及び他校への啓蒙

◎は、栄養教諭と連携した取組

「免田小学校版食育ステップ表」は、①授業実践、②食育・給食指導、③調査・分析・実態把握、④家庭地域との連携の4つの柱を立てて各活動を整理した。これらは、食育を推進する上で有効な共通した柱になると考える。

本校では、研究の視点に沿って①～④の柱を授業・理論部(①)、食育・体育部(②)、調査・環境部(③)、地域・家庭部(④)が担当した。このステップ表では、それぞれの部会がどんな取組をしたのか、これからやるべきことは何かを検証することができた。また、ステップ1からステップ5まで段階的に取組を並べたことで、計画的に研究を進められた。研究を進めながら、修正・追加を繰り返したことで実際に活用しやすいものになったと考える。また、部会で取り組むことで様々なアイデアを出し合い、特に「ステップ4」において発展的な取組ができた。

3学期末までに、「ステップ5」の年間のまとめをして次年度へ引き継ぎたい。

②地域・社会との連携及び啓発について

ア 目標「あさぎり町食育推進会議を設立する。」…達成◎

名称 あさぎり健康21計画・食育推進計画策定委員会（主催：あさぎり町保健環境課）
 会議 第1回 平成27年6月23日（火）
 第2回 平成27年9月29日（火）
 委員 12名（区長会代表、婦人会代表、あさぎり町商工会、あさぎり町青年団代表、JA代表、食生活改善推進員協議会代表、運動普及推進員代表、あさぎり町校長会代表、総合型スポーツクラブ代表、あさぎり町民代表、あさぎり町内保育園代表、給食センター長）

考察 食育に関わる地域の方々に参加していただいた。専門性を生かして授業や体験活動等、本校の食育推進に熱心に関わっていただいた。

イ 目標「免田小学校の児童・保護者の実態を把握する。」…達成◎

アンケートや自己チェック等、次の6つの観点から実態把握をし、数値化し見える化してきた。

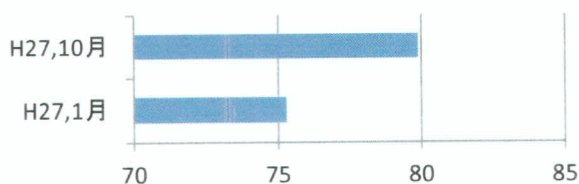
- ・ 食生活調査（全保護者、全児童、全教職員） 1回目…6月3日、2回目…12月9日
- ・ 活動量計調査（全児童） 11月11日から開始 毎週1回…学年別歩数平均
- ・ 体組成計と身体計測（全児童） 毎月1回 肥満傾向児童の把握
- ・ 朝食チェック（全児童） 3品と共食について毎日チェックする。
- ・ 歩数チェック（全児童） 学校内での歩数について毎日チェックする。
- ・ 給食残食調査 給食センターで毎年2回調査+給食委員会での残食チェック
- ・ からだづくりシート、活動量カルテ（全児童）体組成や活動量、活動強度について毎月チェック（11月～1月）

ウ 目標「伝統ある食文化を再生する。」…達成◎

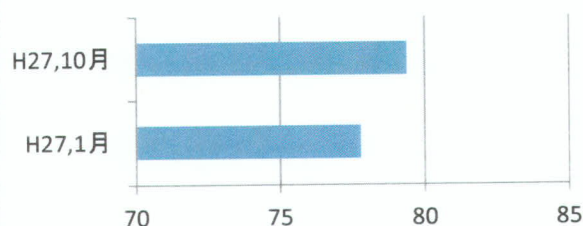
12月の食生活調査で、「好きな料理名」に切り干し大根や小魚の青のりがらめ、つぼん汁、あげの味噌がらめ、みそ汁等の郷土食の名前が挙げられていた。「食育タイム」での指導が有効であったと考えている。給食時間における「食育タイム」はたったの5分であるが、毎日継続することにより児童の知識や意識が変化していくことを実感した。

エ 目標「就学前教育振興・充実に係る実態調査の3項目（就寝時刻・朝食・テレビ等視聴時間）について、基本的な生活習慣の定着率の向上を目指す。」…達成◎

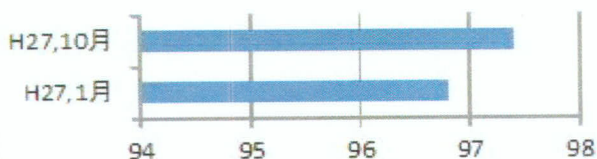
テレビ等視聴
(2時間未満の割合)



10時前就寝の割合



毎朝朝食を食べる
習慣がある割合



「テレビ等視聴」「就寝時間」「朝食習慣」は昨年度の10月よりすべてよくなっていた。6月と10月と2月に「生活チェック表」で基本的な生活習慣の確立を図ってきたことや毎日の「朝食チェック」の取組が大きな要因であると考えられる。

3 成果と今後の課題

(1) 研究の視点1「学習指導の工夫」

【視点1】食への興味・関心を高め、正しい知識と望ましい食習慣を定着させる学習指導の工夫

- 食育推進委員会と連携し、各機関からの情報や専門性を活用しながら、効果的な授業や体験を行ったことで、子どもたちの食への興味や関心を高めるとともに、栄養について考え、進んで食べようとする意欲を高めることができた。
- あさぎり町の特産物の栽培や伝統食等の調理を体験したことで、食べ物を収穫できることの喜びや、栽培や調理に関わる人々への感謝の気持ちを高めることができた。また、好きな料理名に多くの郷土料理や栄養教諭こだわりの料理名が挙げられるようになった。
- 児童が毎日交替で赤・黄・緑の食材の仲間分けとその働きについてホワイトボードに書き込み食育タイムで活用したことにより、食材への理解が高まった。
- ▲学習で高まった意欲をそれぞれの生活において継続的な実践につなげるために、日常的な指導や活動の工夫が必要である。

(2) 研究の視点2「日常指導の工夫」

【視点2】健やかな心と体づくりにつながる自己管理能力を高める日常指導（学校給食含む）の工夫

- 食育年間計画や食育・給食目標の見直しと免田小学校版「食育ステップ表」の作成や検証により、12ヶ月間、また6年間の児童の発達段階に応じた指導を計画的・継続的に積み重ねられるようになった。
- 毎日の給食時間に、5分間の「食育タイム」を設けたり、「食育ロード」に興味を持たせる掲示物を貼ったり、参加型の体験コーナーを設けたりしたことにより、食への知識の蓄積だけではなく、食への感謝等の意識面の高まりが見られた。
- 新体力テストの課題を解決するために「パワーアップタイム」や「外遊びタイム」を設定したり、活動量計を意識させたりすることにより、体力向上への意欲の高まりが見られ、体育以外の運動量も増加した。
- ▲1学期末に事業目標と現状との差を実践に反映すべく研究推進委員会を開いて取組を見直し、食育ステップ表に反映させながら多くの取組を行った。今後は、調査・分析の結果をもとに、効果のあった取組や方法を見直し、取組の精選と食育で目指す事業目標等について検討を行っていききたい。

(3) 研究の視点3「調査・分析・啓発の工夫」

【視点3】食や運動の課題を見つめ、変容を実感する調査・分析・啓発の工夫

- 調査結果や朝食、歩数等について集計・分析したりグラフに表したりと、データの「見える化」を図ったことにより、児童への意欲付けや保護者への啓発が効果的にできるようになった。
- 食育チェックブックでは、自分の食生活や運動等の目標を決めて毎日チェックを行ったり、活動量計を用いて運動量と体組成の結果を確認したりしたことにより、自分の課題を見つけ、めあてを決めて、課題改善を目指して実行するという自己管理能力を高めることができた。
- ▲活動量計の使用により体組成の詳細が把握できることはよかったが、その結果を児童のめあて作りや取組に十分生かすことができなかった。
- ▲購入手続きの関係で活動量計の入手が予定より大幅に遅れ、活用期間が短くなったことが、十分な成果につながらなかった要因の一つであると考えられる。今後も継続して取り組んでいきたい。

(4) 研究の視点4「家庭・地域との連携」

【視点4】学校・家庭・地域が連携し、望ましい食習慣と体づくりへの関心を高める食育活動の推進

- 親子料理教室では、食生活に関する課題を解決するためのテーマを設定して実施したことにより、家庭における食生活改善の具体策を効果的に学ぶことができた。
- 食育に関する講演会や様々な取組の様子や感想等を便りで紹介する等、計画的・継続的に情報を提供し啓発してきたことにより、保護者の食育への関心の高まりにつながっていった。
- ▲家庭での協力体制に差があるので、家庭への働きかけを工夫したり、必要感を感じる取組を考え、継続して取り組んでいきたい。

おわりに

文部科学省より「スーパー食育スクール事業」の研究指定をいただき、本格的に食育に取り組み始めたのは9月以降であり、短期間における大きな成果は表れておりませんが、全職員で取り組んできた食育に係る教育活動の一端と、徐々に見られ始めたわずかばかりの成果や今後の課題等については、この報告書でお伝えすることができたように思います。

年度当初の本校児童の実態から、肥満傾向の児童が多いこと、新体力テスト結果（体力合計点）において1学年から6学年のすべての学年において全国平均を下回っていること、熊本県学力調査や全国学力・学習状況調査結果から学力面において県平均に至らないこと等、多くの課題がありました。また、この根底に、日常的な生徒指導上の問題がしばしば発生し、その対応に追われる日々が続いていたこともあり、このような状況において、果たして研究指定校としての役割が果たせるのだろうかという不安がありました。

しかし、これらの課題について職員が共通認識をもち、担任が課題を一人で抱えるのではなく、学校総体として組織で対応し、一つ一つの課題について粘り強く解決することを目指して参りました。

本校にとりまして、食育を教育活動の大きな柱の一つに取り入れたことは大変有効であったと考えています。「食育ロード」という場づくりにより食に関するコーナーや共通の話題が生まれ、株式会社タニタからの講師をお招きしての特別授業セミナーや給食時間前の食育タイム、そして活動量計の着用は、児童自身が食生活や基本的な生活習慣を振り返り、そして運動量を増やす意欲づくりへのきっかけとなりました。

また、これらの食育に関する取組は、保護者へのお便りやアンケート調査等により、保護者の食に関する意識付け等に役立ち始めているように思います。

さらに、これらの取組は、新しく企画した教育活動を作り上げたというより、これまでの本校の教育活動や指導計画等を見直し、修正を加えながら、給食の時間のあり方を問い直し、地域の支援団体である食生活改善推進委員やJA青壮年部の方々、隣接している南稜高等学校等のご協力をいただき、学年の体験活動や生活科、総合的な学習の時間等の指導内容の工夫と充実を目指してきただけにすぎません。そして、これらの取組を通して、児童が栄養や食事の摂り方などについて正しい知識を身に付け、健全な食生活を実践し、健康で豊かな人間性を身に付けていくことを願って参りました。ようやく12月頃から徐々に、児童の食生活や運動に対する意欲や行動に良い変化が見られ始めています。

スーパー食育スクール事業の事業目標で年度当初に掲げた数値の一つ一つを振り返ると、まだまだ課題はありますが、これまでの取組を通して手応えも感じている部分もあります。このことについては、平成27・28年度熊本県教育委員会「学校給食・食育」研究指定校としての継続した取組に生かして参りたいと思います。

これまで、本校の研究の取組の経緯を見守っていただき、ご指導やご助言を賜りましたスーパー食育スクール事業推進委員会の方々、機会ある度に丁寧にご指導いただきました熊本県教育委員会体育保健課、球磨教育事務所及びあさぎり町教育委員会の方々、そして本校の食育に係る教育活動に惜しみなくご協力やご支援いただきました県立南稜高等学校、あさぎり町当局、食生活改善推進委員、JA青壮年部、そして免田小学校保護者の皆さまにこの紙面を借りまして心からお礼申し上げます。本当に有難うございました。

平成28年2月

熊本県あさぎり町立免田小学校

校長 吉村 英亀